

EUSI メールマガジン Vol. 025

「Multilateralism vis-a-vis Multilateralism」(大隈宏)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 016】

「Multilateralism vis-a-vis Multilateralism」

大隈宏 (成城大学社会イノベーション学部教授 国際関係論、EUSI 設置講座
(一橋大学大学院)「EU 論」担当)

よくよく考えるまでもなく、EUも国連も、レベルこそ異なるものの Multilateralism(多国間主義)の優等生です。<にもかかわらず>というべきか、<それが故に>というべきか、いずれにしても歴史的にみた場合、両者間の関係は意外なほど希薄でした。

いうまでもなく、われわれは次のような事実を過小評価してはいけません。
すなわち (1) EU は、国連総会および国連経済社会理事会において、オブザーバーの地位を付与されています。(2) EU は、気候変動枠組条約等、50以上の国連協定に Full Member としてコミットしています。(3) EU は、国連が主催するさまざまな国際会議に、オブザーバーあるいは Full Participant として参加しています。(4) EU は、FAO およびその関連組織であるコーデックス委員会に Full Member として迎えられています(それぞれ、1991年および2003年)。(5) EU は、GATT/WTO において、共通通商政策を展開する独自の関税地域として Full Member の地位を獲得しています。

また EU は、ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーン、ローマ、パリ、ナイロビに国連とのコンタクト・ポイント(代表部等)を設けています。それに呼応するかたちで国連も、ブリュッセルに西欧地域情報センターを設置し、さらに26におよぶ国連専門機関/基金/プログラムが、ブリュッセルに事務所を構え、UNDP 事務所を中心として積極的に EU 諸機関に対するロビー活動を展開しています。

とはいえ、このような現実とは裏腹に、EU と国連が、相互に Natural Partner/ Essential Partner として熱いエールを交換し、緊密な協力関係の推進を模索するようになったのは、ごく最近、とりわけ「米国同時多発テロ」の勃発(2001年9月11日)以降のことです。いうまでもなく EU にとって、国連を中核とする Multilateralism の推進というスローガンは Unilateralism(単独行動主義)への傾斜を深めていったアメリカに対する牽制という、高度に戦略的な思惑を秘めるものでした。事情は、国連にとっても同様でした。国連は、地盤沈下の逆転を狙って、互恵的パートナーシップあるいは相互補完的關係というレトリックを駆使して、阿吽の呼吸で EU からのラブコールに応えたのでした。それは開発協力や人道援助の分野から始まり、こんにちでは平和・安全保障・人権・環境等、多方面にわたる包括的なパートナーシップの構築へと発展する勢いです。

それではこのような EU-UN パートナーシップは、今後どのような軌跡を辿ることが想定されるのでしょうか。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol16.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 政治プロジェクト研究会

「EMS(欧州通貨制度)の成立とユーロ危機に対する省察」

日時: 2013年5月30日(木) 17:00-19:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 1F・411 教室

使用言語: 英語(通訳なし)

申込・登録: 不要・参加自由

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/49243063944/ems-2013-5-30>

報告: Emmanuel Mourlon-Druol (University of Glasgow)

討論: 池本大輔 (明治学院大学法学部准教授)

司会: 細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授)

(Emmanuel Mourlon-Druol,

A Europe Made of Money: The Emergence of the European Monetary System
(Ithaca, NY: Cornell University Press, 2012))

<http://www.cornellpress.cornell.edu/book/?GCOI=80140100879390>

2. 日・EU フレンドシップウィーク: 津田塾大学・公開講座

「社会的ヨーロッパの隘路と可能性」

日時: 2013年6月2日(日) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学小平キャンパス 7号館 7101 教室

司会: 網谷龍介 (津田塾大学学芸学部教授)

報告者:

・田中拓道 (一橋大学社会学部准教授)

「社会的ヨーロッパのゆくえ」

・水島治郎 (千葉大学法経学部教授)

「オランダモデルとヨーロッパ現代政治の変容 反転する福祉国家」

討論者: 近藤康史 (筑波大学人文社会系准教授)

3. 日・EU フレンドシップウィーク: 津田塾大学・パネル展示

「日本のヨーロッパ発見 1872年~73年に岩倉使節団が見聞したヨーロッパの多様性と統一性」

日時: 2013年5月7日(火) - 6月7日(金) 9:30-16:30 ※土日を除く

場所: 津田塾大学小平キャンパス 7号館 1階ラウンジ

協力: オーストリア大使館

4. 日・EU フレンドシップウィーク: 一橋大学・パネル展示

「Drago mi je (はじめまして)! 2013年加入国 クロアチア紹介」

日時: 2013年5月13日(月) - 6月7日(金) ※土日を除く

会場: 一橋大学附属図書館公開展示室

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

Christian Raetzke (CONLAR Leipzig, Germany)

"The European Reaction to the Fukushima Incident"

(EUSI Working Paper Series L-2013-01)

http://eusi.jp/content_jp/research/working/working-law/working-paper-series-l-2013-01.html

Hideki Hayashi (EUSI in Tokyo)

"Lessons of the Euro Crisis: A New Asian Financial Order? -From Japan's Perspective-"

(EUSI Working Paper Series E-2013-01)

http://eusi.jp/content_jp/research/working/working-economics/working-paper-series-e-2013-01.html

田中俊郎 (EUSI 前所長・慶應義塾大学名誉教授)

「サッチャー元英首相と欧州統合」

『EU MAG』(駐日欧州連合代表部メールマガジン) (2013年5月14日)

<http://eumag.jp/behind/d0513/>

【EU に関するニュース】

- 2013年5月2日 新「エウロペ」シリーズの5ユーロ札流通開始。2002年ユーロ導入後初の新紙幣。偽造防止強化
- 2013年5月2日 米メリーランド州死刑廃止州法制定(米国で18番目の死刑廃止州)。アシュトン代表、祝意表明
- 2013年5月3日 レーン副委員長、2013年春季経済見通し発表。本年後半に緩やかな回復、来年は経済成長と予測
- 2013年5月3日 アシュトン EU 上級代表、世界報道自由デーに寄せて、EU は報道・表現の自由を守る意思を声明
- 2013年5月6日 欧州委員会、食の安全に関する諸提案。約70の現行法を5つに整理、健康・安全基準執行を強化
- 2013年5月7日 EU、ソマリアの司法制度・警察能力に対して4400万ユーロ分の追加支援を発表
- 2013年5月8日 欧州委員会、2013年 EU 市民権報告書発表。EU 市民権の積極的行使のための12の具体的方策を提示
- 2013年5月8日 欧州委員会、EU 基本権憲章の適用に関する年次報告書を採択。男女平等に関する進捗評価など
- 2013年5月8日 欧州委員会、中国製の太陽光発電用パネルに対する反ダンピング課税を提案
- 2013年5月8日 欧州委員会、EU 加盟国が武器貿易条約(ATT)に調印することを認める EU 理事会決定案を提示
- 2013年5月8日 欧州委員会、銀行口座に関する指令案。口座手数料比較・口座変更・他加盟国での口座開設など
- 2013年5月8日 独財務省、銀行清算機関設立には EU 条約改正が必要で、銀行同盟実現へ2段階アプローチを主張
- 2013年5月9日 ヨーロッパ・デー
- 2013年5月9日 駐日 EU 代表部、日・EU フレンドシップウィーク・フォトコンテスト開催(6月7日まで)
- 2013年5月9日 駐日 EU 代表部、公式アプリ「EU を知ろう EU IN JAPAN」開始。EU に関する情報提供を強化
- 2013年5月10日 アシュトン EU 上級代表、東エルサレムと西岸地区での緊張の高まりに対して憂慮を表明

- 2013年5月10日 欧州委員会、シリア危機に対する追加支援として6500万ユーロもの人道援助を発表
- 2013年5月12日 ショイブレ独財務相、独シュピーゲル誌報道で、ECBの資産担保証券(ABS)購入に反対表明
- 2013年5月13日 ユーログループ財務相会合、対ギリシャ支援として75億ユーロ分の融資を承認
- 2013年5月13日 欧州安定機構(ESM)、対キプロス支援第1弾として20億ユーロ分の拠出を発表
- 2013年5月13日 欧州委員会、大西洋における海洋・沿海経済の再活性化のための行動計画を採択
- 2013年5月13日 EU理事会、ユーロ圏における経済統治の強化を目指す「ツープック」規則を採択
- 2013年5月13日 EU理事会、格付け会社に関するルール改正指令・規則を採択。透明性や競争の向上などが目的
- 2013年5月13日 アシュトン EU上級代表、パキスタン総選挙の成功に対して祝意。女性参画向上などでは留意
- 2013年5月13日 ショイブレ独財務相、銀行清算機関設立と銀行監督一元化を分ける2段階アプローチを主張
- 2013年5月13日 アスムセン ECB専務理事、ショイブレ提案に反論、銀行監督権限強化には清算権限必要と主張
- 2013年5月13-14日 駐日EU代表部及び加盟国大使・外交官らによる出張講義「EUがあなたの学校にやってくる」
- 2013年5月14日 EU経済・財務理事会、スイスら5カ国と貯蓄課税協定改正交渉認可、13年度予算2次修正案合意
- 2013年5月14日 アルムニア副委員長、VISAヨーロッパ社の銀行間手数料削減提案を歓迎
- 2013年5月14日 欧州委員会・EFTA、反トラストの疑いのある石油・バイオ燃料部門数社への抜打ち調査を確認
- 2013年5月15日 EU・仏・マリ共催国際支援国会議、ブリュッセルで開催。総額32.5億ユーロの対マリ支援合意
- 2013年5月15日 欧州委員会、中国からの携帯通信機器輸入品に対する反ダンピング調査開始
- 2013年5月15日 欧州委員会、反トラストの疑いのある砂糖関係企業数社に対して抜打ち調査を確認
- 2013年5月15日 Eurostat、2013年第1四半期のGDP速報値は、前期比でユーロ圏0.2%、EU全域0.1%の減少

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは大隈宏教授に、論じられることが少ないEU・国連関係の発展と今後の展望について、政治的な視点から論じて頂きました。エッセイの中で指摘されているように、EUと国連は共に国際組織でありながら従来、関係は密接ではありませんでした。その後、「米国同時多発テロ」以降の米国の単独行動主義に対するEUからの批判、さらにはリスボン条約を契機に進められたEUの国連における資格強化の働きかけが、途上国の反対という意外な伏兵により挫折しソフトパワーの限界を知る、という国際社会のダイナミックな展開を知ることができると思います。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSIメールマガジン編集担当)

クロアチアのEU加盟までいよいよあと1カ月とちょっとに迫りました。そこでこの編集後記ではクロアチア関連のことに触れてゆきたいと思います。ご存知のとおり、クロアチアはもともとユーゴスラヴィア連邦の一国でしたが、冷戦終結後のユーゴ解体により独立国となりました。90年代のユーゴ内戦ではセルビアとの紛争、ボスニア・ヘルツェゴビナ独立後の紛争介入など、国際的に孤立していましたが、2000年のラチャン首相就任以後、国際協調路線へと舵を切ってゆくこととなりました。欧州との関係では、旧ユーゴ連邦の一国でもあったスロベニア、ハンガリー、そしてアドリア海に面しているためイタリアとの関係が深く、現在もイタリア

は最大の貿易相手国です。また同じ帝国領だったオーストリアも最大の FDI 投資国として関係が深く、その他ドイツやオランダなど西欧諸国も、投資を通じて伝統的に深い経済関係を保っています。

クロアチアの EU 加盟は平坦なものではなく、先に加盟を果たしたスロベニアとピラン湾の境界画定問題が長らくネックとなり、2004 年加盟候補国認定を受けた後も、交渉凍結が続いていました。(これに関しては、EUSI Commentary の川崎恭治 EUSI 所長によるエッセイをご参照ください)。その後不断の努力により加盟要件をクリアし、2011 年 12 月に加盟条約を締結し、現在に至っています。人口 500 万人に満たない小さな国にみえますが、昔から芸術・スポーツでは傑出した人材を輩出しており、サッカーやバスケットボール、バレーボールや格闘技などは現在も世界のトップレベルです。サッカーでは 1998 年 W 杯フランス大会で 3 位に入ったことも記憶に強く残っているのではないのでしょうか。

最近では日本との関係も盛んになっており、アドリア海に面しているため豊かな海、美しい森林や滝、ワイン、さらに世界遺産など文化財にも恵まれています。実は温泉の宝庫といわれているとか！またジブリ映画「紅の豚」はクロアチアのドブロブニクという街がモデルといわれ、同国で最も人気の観光都市です。7 月 1 日の EU 加盟まであと 1 カ月となりましたが、クロアチアに対して今後さらに関心が高まってゆくことを期待しています。

(参考: 川崎恭治「クロアチアの EU 加盟とピラン湾の境界画定問題」)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol09.pdf>

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー #3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
